

夫馬の鳶さん

一 顔戸山家に過ぎたるものは、 石の鳥居に寺五ヶ寺一

江戸時代後期の里唄にうたわれた顔戸の鳥居は日撫神社の「一の鳥居」。寛政七年(1795)8月に完成した鳥居は、いまも顔戸のシンボルといえます。

さて、大鳥居建立には上夫馬(朝日)の林武右衛門が鳶の棟梁として活躍しています。武右衛門は、享保六年(1717)に上夫馬の材木商の子として生まれました。大勢の人が汗まみれで艇子を使って材木を運び出す作業をみて育ち、家業を手伝うようになると、もっと楽に動かす方法はないかと、図面を描き模型を作って考え続けました。数年かけて完成したのが、轆轤仕掛けの機械です。

完成後、藤川の建前で試され、安全性と少ない人手で施工できることから多くの人々を感心させ、評判が高まりました。ついにこの仕事を本業とし、高いところでの作業を得意とすることから「鳶」とよ

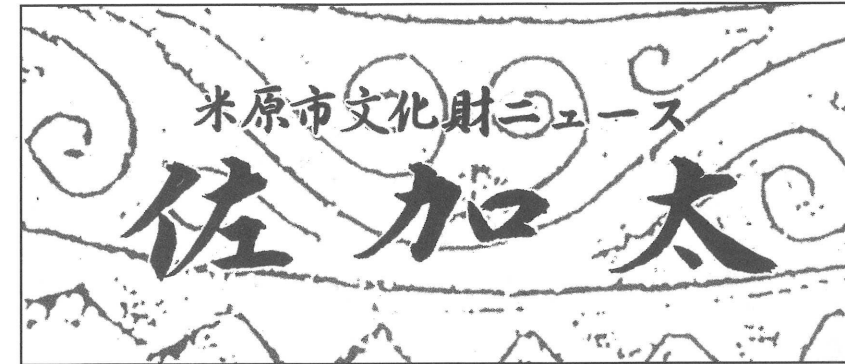
ばれるようになったそうです。

その後も武右衛門は、次々に新しい轆轤機械を考案、普請や架橋などに必要な技術者を育てて、上夫馬の鳶の技術者は全国各地に招かれて「夫馬の鳶さん」と親しまれたそうです。

武右衛門が手がけた大工事として、仙台藩の河川架橋、浅草浅草寺、京都仏光寺の本堂、近江国内の城や櫓などがあり、各地の寺社堂塔の移動にたいへんな功績をのこしました。鳶職のことを別称「夫馬鳶」とよぶほどでした。(高橋順之)



▲顔戸の大鳥居



佐加太とは、「和名抄」東急本の坂田郡の訓を引用しました

米原市の古代寺院① 三大寺跡(枝折)

米原市の古代寺院は天野川流域に集中します。三大寺跡(枝折)・法勝寺跡(高溝)・飯村廃寺跡(飯)・磯廃寺跡(堂谷遺跡/磯)・法泉寺遺跡(本郷)の存在が知られています。関連する遺跡として、瓦を焼いた窯跡である不動谷遺跡(番場)もあります。法泉寺遺跡を除くと、古代朝妻郷とよばれる地域内にあり、古墳時代に、旧近江町域に多くの古墳を築いた息長氏の勢力範囲になります。また、東山道(中山道)が通過し、河口には古代以来の要港・朝妻湊が営まれました。

三大寺跡がある醒井地区は、北に天野川と多和田山、西に丹生川、東西に霊仙山の山丘が迫り、南は奥行き浅い醒井峡谷となるきわめて狭い場所です。ここを東山道が通っていて、東の柏原からは北陸に通じる北国脇往還へ分岐し、西は北国街道との分岐点・鳥居本や、朝妻湊に到達します。山に囲まれた醒井は、畿内・北陸・東国を結ぶ水陸交通の要衝にあり、地理的に東国との交流を左右できるネックとなります。「三大寺」という遺跡名は、付近に随泉寺・福遊寺・多聞寺などの寺院があったという伝承に由来しています。

明治36年、醒井小学校の増改築で白鳳時代(7世紀後半)の瓦が多量に出土して、寺院の存在がわかりました。昭和57年、小字塚原で発掘調査がおこなわれ、6世紀後半から7世紀前半の古墳3基と、6世紀末から7世紀初頭の集落跡、7世紀後半から8世紀初頭の建物の基礎となる基壇が見つかりました。基壇は東西24m×南北21mで、その周りには大量の瓦が集められていて、これが三大寺の建物跡であることが確認されました。



▲三大寺跡基壇出土状況

しかし、これ以外の寺院遺構は見つからず、山が迫った周辺の地形から、壮大な伽藍が立ち並ぶものではなく、瓦葺建物1棟のみであった可能性が指摘されています。一方、小学校校地から瓦が出土した北側の地区も、地形的制約から1棟程度の建物しか建立されなかったと思われます。

二つの建物が同じ寺院の建物か、独立したものはわかりません。塚原地区の建物には、湖東地域の寺院を中心に湖北にも広がっている湖東式とよばれる近江特有の瓦が葺かれていたことが、軒先部分の瓦の文様からわかります。一方、小学校校地からは、この瓦とともに奈良藤原宮の本薬師寺で使われている瓦と同じものが見つっています。本薬師寺は、壬申の乱(672)の八年後に天武天皇(大海人皇子)が建立した寺院です。壬申の乱は天智天皇の子・大友皇子と弟の大海人皇子とが争った内乱です。不破の関から近江に進軍した大海人軍は、「息長の横河」、「犬上川の濱」、「安川の濱」での激戦を制し、勢多橋(瀬田唐橋)で勝利を収めました。この「息長の横河」は、古代豪族息長氏の拠点である旧近江町域から醒井付近を含む天野川流域と考えられ、三大寺跡は、壬申の乱の激戦地に建てられた天武天皇ゆかりの寺院ということができます。犬上川などの激戦地にも、死者の菩提を伴うように、同じ文様を持つ瓦を葺いた寺院跡が見つっています。(高橋順之)

参考文献：田中勝弘「古墳と寺院 琵琶湖をめぐる古代王権」2008



▲湖東式軒丸瓦
〔山田寺式〕



▲本薬師寺式軒丸瓦

情報BOX

◆埋蔵文化財活用シンポジウム

「天野川流域の古代寺院」

古代寺院が集中する天野川流域。古代東山道が通過し、河口に朝妻湊がいとなまれました。米原市の歴史的特色である交通の要衝性と、古代寺院が果たした歴史的役割にせまります。

主催/米原市教育委員会 後援/滋賀県教育委員会

期日/平成22年3月7日(日) 午後1時~

会場/米原市近江公民館 米原市顔戸1513

参加費/300円(予定/申込不要)

内容/

■記念講演「古代寺院の歴史的役割」

上原真人(京都大学大学院教授)

□基調報告1「古代寺院と交流」

北村圭弘(滋賀県教育委員会副主幹)

□基調報告2「古代寺院と交通路」

内田保之(財団法人滋賀県文化財保護協会主任)

■シンポジウム 問題提起「壬申の乱と聖武行幸」

田中勝弘(前滋賀県埋蔵文化財センター参事)

パネラー 各報告者

関連行事1/企画展「天野川流域の古代寺院」

場所/近江はにわ館

会期/3月6日(土)~3月28日(日)

関連行事2/現地見学会・企画展解説(要申込)

場所/法勝寺跡ほか 日時/3月7日(日)午前中

◆米原市柏原宿歴史館では、下記の図録を刊行しました。

「福田和弘木版画作品集」

「庄屋からのメッセージ 一上夫馬村宮部家文書一」

◆◆編集後記◆◆

今年には寺にかかわる年でした。10月の山寺サミットと3月の古代寺院シンポジウム■個人的に伊吹山と霊仙山をフィールドにしたいと考えているので、山寺サミットはのりのりでした■「山寺」は一般に山岳寺院ともよばれます。霊仙山頂には霊山寺があったとか、なかったとか…■伊吹山中の標高700mにある弥高寺跡から、平野部の集落の背後の小丘にある事例まで、その立地や歴史はさまざまです■サミットでは、現時点の中間報告的な報告と討論がされましたが、山寺の定義もまだ周知されていません■これからまだまだ楽しい素材です。逆に天野川流域に展開する白鳳寺院群…■勉強不足の編集子には、ちょっと手に負えない…。「壬申の乱」「霊亀の寺院併合令」「聖武天皇東国行幸」■もともと伊吹の熊には、掘ったことのない時代で、頭のなかを天武と聖武や、紫香楽宮・保良宮等がぐるぐる回っていました■きっとシンポジウムは先生方の温かいご協力で盛会に終わります。資料集を作りながら、ようやく天皇さんや宮都が頭のなかで落ち着いてきました(山ノ神)

米原市文化財ニュース

佐加太 第31号

発行 平成22年3月6日

編集 米原市教育委員会

〒521-0292 滋賀県米原市長岡1206番地

米原市教育委員会まなび推進課

TEL.0749(55)8106 FAX.0749(55)4040

印刷 ビッグバードデザイン株式会社

法勝寺跡（高溝）

「米原市の古代寺院①」では、天武天皇ゆかりの瓦が、三大寺跡(枝折)の建物に葺かれていたことを紹介しました。これは、壬申の乱の激戦地であった「息長の横河」に、天武天皇が発願して建立した可能性が指摘されています。さらに、三大寺跡が古代豪族・息長氏の勢力範囲に建てられていることから、壬申の乱において息長氏が何らかの役割を果たしたことがうかがえます。これが、さらなる息長氏と古代天皇家との結びつきにつながっていくのです。

近江地域を中心とする古代朝妻郷は、息長氏の本拠地とされ、三大寺跡がある醒井付近は、分柱した息長丹生真人一族の居住地との伝承があります。醒井から天野川を渡った能登瀬や顔戸、高溝にかけての丘陵から平地には、古墳時代初期から古墳が造られてきたことが確認されています。とくに6世紀に入ると、湖北地方で最大の勢力をもつようになる息長氏の首長たちの墓として、塚の越古墳(新庄)や山津照神社古墳(能登瀬)などの前方後円墳が築かれます。

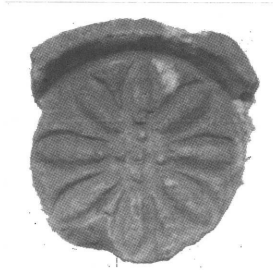
この古墳群中心部から北西約2kmにあるのが法勝寺跡です。法勝寺も白鳳時代創建の寺院で、平安時代頃まで続いた息長氏の氏寺だと考えられています。538年、国家の体制を左右する思想として仏教が伝わり、大きなお墓が造られた古墳時代が終わりを迎えます。仏教は天皇家や大和政権を支える有力豪族に浸透し、7世紀後半に律令体制が確立する頃には、各地に多数の寺院が建立されます。息長氏の氏寺法勝寺もそのひとつで、前方後円墳築造に代わる新たな建築事業のはじまりです。

法勝寺跡は、これまでの発掘調査の成果や地形、瓦が採集されている状況などから、二町(220m)四方におよぶ広大な寺域が想定されています。見つかった瓦は、軒先の丸瓦の文様から4種類があり、白鳳時代から平安時代まで続いた寺院だったことがわかりました。なかには、国内では法勝寺跡と大阪府善正寺跡からしか見つからない、朝鮮半島百済の瓦の特徴をもつものがあります。山津照神社古墳からは、大陸との関わりがきわめて深い金銅製の冠が出土しています。塚の越古墳からも出土したと伝えられていることから、息長氏と大陸との関係は古墳時代にさかのぼり、氏寺造営にも外来系の軒瓦が葺かれていたようです。

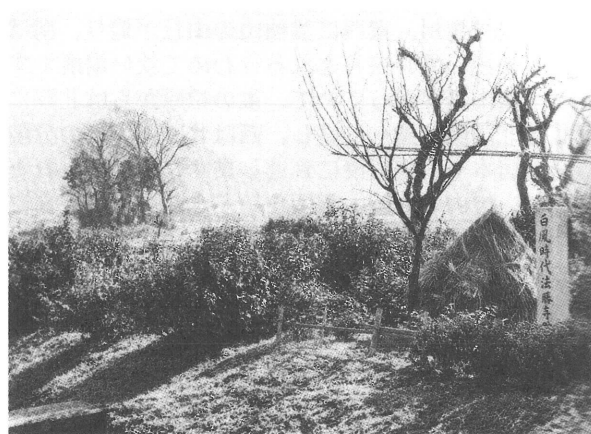
白鳳時代、市内に三大寺跡、法勝寺跡、飯村廃寺跡、磯廃寺跡などが建てられ、全国的にも爆発的に増えた寺院ですが、都が平城京へ移るころにその様子が一変します。霊亀二年(716)の詔のなかで、仏像や経典を敬う心が失われ、檀家が寺を維持するた

めの田畑を独占し、伽藍を荒廃のままに任せ、無住になってしまう寺が多いことが述べられています。そこで、同じ地域内の寺院の統廃合が進められます(寺院併合令)。三大寺跡の発掘では、壬申の乱(672)直後に建てられた堂跡が、8世紀初頭までのわずか20~30年で、完全に法灯を消していることがわかりました。瓦の出土状況から、修理や改築がされないまま、朽ち果てて倒壊して、放置されてしまったようなのです。飯村廃寺跡や磯廃寺跡も奈良時代の早い時期に廃絶しています。湖北全体を見ても白鳳時代から平安時代まで続いたのは法勝寺跡しかありません。これが、併合令によるものかどうかはわかりませんが、国家による仏教政策の転換を、三大寺跡と法勝寺跡の調査からうかがい知ることができそうです。(高橋順之)

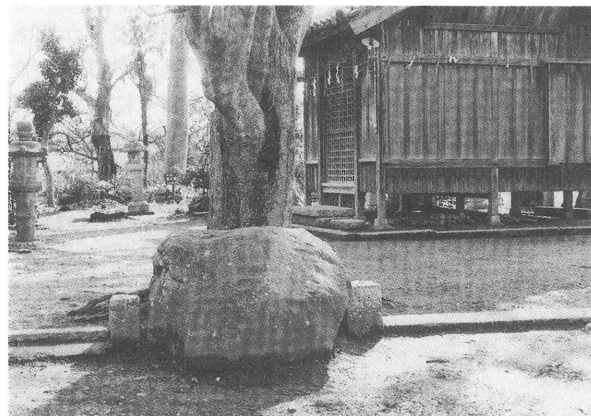
参考文献：田中勝弘「古墳と寺院 琵琶湖をめぐる古代王権」2008



▲平安時代の瓦



▲法勝寺跡



▲法勝寺の礎石(湯坪神社)

「第4回 山寺サミット」を開催しました — 2009.10.3~4 —

最近、「寺院の城郭」が注目されています。とくに滋賀県では、昭和58年から10年にわたって実施された中世城郭分布調査がきっかけで多くの寺院城郭があきらかになりました。さらに、ここ数年、県教育委員会主導のもとで、県内の研究者が集まって山寺検討会による調査会が繰り返され、その中間報告として米原市で4回目の山寺サミットを開催しました。近江は琵琶湖のまわりをたくさんの山々を取り囲んでいます。中世、山寺が山城に容れられている事例が多く確認されていますが、近江においてはこれ

が特に顕著で、また山寺と城郭の関係が多岐にわたっていることがわかってきました。山寺の景観を色濃く残す事例、完全に城郭化された事例、山寺と城郭が並存する事例など、今後の調査研究に欠かせないのが琵琶湖を取り巻く山寺群です。山寺とされる遺跡の数は約450件を数え、資料集では、37の寺院城郭(下記一覧参照)を調査カードと概要図で紹介しました。これらの試みは、全国的にも初めての先進的な事例だと思われます。

(第4回山寺サミット事務局/米原市教育委員会)

滋賀県の寺院城郭

寺院城郭および寺院城郭の可能性のあるもの(平地遺構除く。資料集掲載の37件)

寺社名	城名	所在地	区分	遺構	区分の理由	文献
1 万福寺	別所山砦・山寺山砦	余呉町	凸	平坦面・土塁	賤ヶ岳合戦の陣城の伝承。山寺砦の区画土塁は寺院のものか。遮断施設なし。	7
2 大嶽寺	小谷城	湖北町	凸	土塁・堀切・平坦面	城郭遺構のみ。寺院遺構は未確認。	7
3 上平寺	上平寺城	米原市	凸	土塁・堀切・平坦面	寺院に隣接する城郭遺構	5
4 弥高寺	弥高寺陣所	米原市	△	横堀・虎口・平坦面	寺院遺構の前後に堀を伴う城郭遺構	5
5 太平寺	太平寺城	米原市	卍	平坦面・石垣	南北朝期に山伏の城有とするも寺のみ。	6・a
6 清滝寺	柏原城	米原市	△	平坦面・土塁・竪堀	寺院に隣接した尾根に砦	6
7 勝楽寺	勝楽寺城	甲良町	?	平坦面・石垣	曲輪の削平不良、遮断施設なし。寺院遺構としても不明確。	5
8 敏満寺	敏満寺城	多賀町	△	堀切・土塁・虎口	敏満寺西側一角を城塞化。浅井氏関与か。	5
9 金剛輪寺	金剛輪寺城	愛荘町	△	堀・平坦面・土塁	寺院背後の山頂部に山城。境内も改変か	5
10 百済寺	百済寺城	東近江市	△	土塁・堀切	寺領外縁に砦。境内の城郭遺構は谷組の区画堀の可能性あり。	5
11 長光寺	長光寺城	東近江市	△	平坦面・石垣	山城直下に近世の寺院遺構。山頂部に山城。	4
12 退蔵寺	九居瀬城	東近江市	卍	平坦面・堀切・竪堀	山腹の寺院遺構と山頂部の山城との関係は希薄。	
13	和南城	東近江市	?	土塁・堀切・虎口	城とされるが存疑。その他施設の可能性	4
14 成願寺・阿賀神社	小脇山城	東近江市	卍	平坦面・石垣	社寺内には防御施設なし。尾根上の城跡との関係は希薄。	4
15	長寸城	日野町	卍	土塁・石垣	城郭とされるが、信仰施設の可能性あり	4
16	鳥居平城	日野町	△	土塁・堀切・平坦面	群郭式の城?集落・寺院も丘上に展開と伝承。	4
17 観音正寺	観音寺城	安土町	△	石垣・土塁・平坦面	寺院遺構と城郭遺構が融合	4
18 安土寺・九品寺	安土城	安土町	凸	石垣・土塁・平坦面	寺院的な遺構は、道の両側にひな壇状の平坦面が認められる。	4
19 願成就寺	八幡山城	近江八幡市	凸	石垣・土塁・平坦面		4
20 阿弥陀寺	北之庄城	近江八幡市	△	横堀・土塁・虎口	寺院遺構に横堀・土塁を構築。築城主体不明、佐々木氏か。	4
21 西光寺の一部	星ヶ崎城	竜王町	卍	石垣・平坦面	防御施設なし。山麓の西光寺の施設か	4
22 雪野寺	竜王山遺跡	竜王町	△	平坦面・土塁・空堀	山頂の城と山腹・山麓の寺が隣接	4
23 小菩提寺・和田社	谷城	湖南市	卍	平坦面・土塁・切通	社地を区画する低土塁や切通道を堀切など城郭遺構と誤認。	2
24 正福寺	東・西正福寺城	湖南市	卍	土塁	館城とされるが、寺院遺構	4
25 飯道寺	飯道山城	甲賀市	卍	平坦面・石垣	城郭遺構は無く、寺院遺構のみ。	2・b
26 広徳寺	金剛童子峰	甲賀市	卍	平坦面・石垣	城郭遺構は無く、寺院遺構のみ。	2・b
27 息障寺	岩尾山城	甲賀市	卍	平坦面・石段	城郭遺構は無く、寺院遺構のみ。	2
28 延暦寺	延暦寺	大津市	卍	平坦面・土塁	明確な城郭遺構なし。ただし寺域外縁に浅井・朝倉軍の陣城。	9
29 園城寺(如意寺)	園城寺	大津市	△	堀切	長等山から如意寺の山頂稜線に堀切点在。山麓に園城寺の遺構	9
30 歡喜寺	歡喜寺城	大津市	△	土塁・堀切・平坦面・石垣	寺院の背後・側面に山城。境内に堀切	9
31 壇陀坊	ダング坊城	大津市	卍	平坦面・石垣・土塁	桁形伴う館城があるというも寺院遺構のみ	d
32 清水寺	清水山城	高島市	△?	土塁・平坦面・空堀	山城に先行して寺院が展開。並存するか不明。	8
33 大宝寺	井ノ口館	高島市		土塁・空堀・平坦面	清水城の山麓に方形区画群。城なのか寺なのか不明。	8
34 長法寺	長法寺城	高島市	卍	土塁・石垣・平坦面	打下城近隣。城と評する土塁もあるも存疑	8
35 太山寺	太山寺城	高島市	卍	平坦面・土塁・堀切	寺院遺構か? 城郭は誤認の可能性	8
36 上寺	上寺城	高島市	△	土塁・堀切・平坦面	本堂裏に横堀を伴う単郭の城(田中城)	8
37 酒波寺		高島市	卍	平坦面		

区分の記号：卍=寺院、△=融合、凸=城、?=詳細不明

文献：1~9は滋賀県中世城郭分布調査の巻数 a：大原観音寺文書 b：甲賀郡誌 c：天台座主記 d：近江山寺関係遺跡基礎資料集成

備考：寺院遺構を完全に破壊し、新規の城郭を構築した彦根城は割愛